

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201800		
法人名	ヒューマンリソシア 株式会社		
事業所名	グループホーム ヒューマンライフケア大倉湯		
所在地	札幌市東区北23条東5丁目5番21号 (電話) 011-731-4165		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年6月23日	評価確定日	平成20年7月16日

【情報提供票より】 (20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤15人, 非常勤 3人, 常勤換算	16.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～42,000円		水道光熱費30,000円
	その他の経費(月額)		暖房費 10,000円
敷金	有()円・ 無 (暖房費11月～3月)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 無		有りの場合 償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月23日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	5名	要介護2	5名
要介護3	6名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	84歳	最低 76歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ことに共生クリニック、平澤内科呼吸器科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは開設後5年目を迎えたが、建物内部は清潔感を保っており、総体的に明るく、利用者の作品など親しみのある装飾がなされて、家族的雰囲気に満ちた施設となっている。利用者に対するケアサービスも規則に縛られることなく、管理者及び職員は利用者とともに支え合う関係を大事にし、熱意を持って利用者本位の介護に徹している。このため、利用者ばかりでなく家族からの信頼度も高く、頼りにされている。運営推進会議の積極的開催や地域との連携強化など、さらなる取り組みを期待したい部分もあるが、家族が安心して利用者を託すことのできるホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で課題であった運営理念の明示は、改訂パンフレットで検討されており、健康診断は、札幌市の「すこやか検診」が実施されている。そのほかの指摘事項も避難訓練などは、これから実施する予定であり、それぞれの課題の改善に向けて取り組む姿勢が伺える。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価作成に参加している。管理者は職員各自の自己評価をまとめて作成し、評価結果については、内容を検討しながら評価を活かしたケアサービスに努めるよう取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は19年6月に開催され、ホームの概要と運営状況、参加者との意見交換が行われた。これによって地域住民の方々がホームを理解し、身近な存在として感じられたなどの好意的評価を得たが、その後都合により会議が開催されていないので、今後の開催と討議内容をホーム運営へ反映させることを予定している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告は、家族のホーム来訪が多いため、その際に気軽に話し合える雰囲気を作りながら苦情や意見をいただくようにしている。さらに、一人ひとりへのお便りの郵送やメールで、利用者の写真を送信して好評を得ている。家族からの意見などは職員の申し送りやミーティングで十分に検討され、ホーム運営に反映させるよう努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員と利用者が、自主的にゴミ拾いを行っていたり、町内会に加入し、お祭りなどに参加しているが、まだ十分な交流までには至っていない。ホームは今後、老人会など各種会合への積極的参加やイベントへの招待など、地域住民の方々がホームに気軽に立ち寄ってくれる仕組みづくりを検討し、地域との連携を深める予定である。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、開設当初に職員が検討して独自の理念をつくりあげたもので、これを基に地域との係わりも大事にしながらケアサービスに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員採用時に説明され、日常の業務においても理念に基づく業務の必要性和理念の共有を管理者を中心に確認されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、お祭りなどに参加をしているが、職員と利用者が、地域のほかの行事にも参加を予定するなど、地域との交流を深めようと努力している。	○	ホームとして地域行事への参加は一部にとどまっている。今後は町内会各種行事へ積極的に参加するとともに、地域住民の方々が気楽にホームを訪れてくれるような仕組みづくりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、自己評価や外部評価の意義を理解しており、全員参加で自己評価の作成に取り組んでいる。また、評価結果についてはミーティングなどで確認しながら改善策を検討している。		

札幌市東区 グループホーム ヒューマンライフケア大倉湯

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成19年6月に開催して、ホーム運営状況報告や意見交換が行なわれたが、利用者の状況など、都合によりその後開催されていない。	○	運営推進会議は、地域のホームに対する理解と会議における意見がホーム運営に大きな役割を果たすので、できるだけ（原則2ヵ月毎）会議を多く持ち、積極的意見交換が行なわれることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは行政担当部署へ頻繁に訪れ情報交換を行なうとともに、担当者にホームへ訪問してもらするなど、行政との連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多いため、その際に利用者の状況を報告するとともに、一人ひとりへのお便りの郵送やメールによる利用者写真の送信などが行なわれているが、定期的なホーム便りは作成されていない。	○	家族への報告は十分に伝わっているが、さらにホーム便りがあれば、家族のホームに対する理解と利用者の暮らしぶりを把握することによって家族に安心感を与えるため、定期的ホーム便りの発行の取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には、管理者や職員は家族が気軽に話せるよう配慮し、苦情や意見などをいただくようにしている。改善が必要な内容については、ミーティングで検討しながらホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が高く異動は少ないが、近くに位置する同法人運営のグループホームやデイサービスへ異動があった際には、しばらくの間、新旧職員と一緒に勤務するなど、利用者の不安をなくすよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は運営法人が年間計画によって実施しており、従来は少なかった外部研修へも出来るだけ参加するよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会議を通して情報交換などの交流があり、さらに今年は、ほかのホームとの相互訪問も予定しているなど、交流を通じてケアサービスの質的向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望がある際には、事前に家族と十分な話し合いと、利用予定者に出来るだけホームに来てもらい、ほかの利用者と食事をともにするなど、ホームの雰囲気に慣れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する一方的立場ではなく、利用者と一緒にホーム内作業や花壇の手入れ、各種趣味や娯楽を行なうなど、ともに支え合う関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の入居前に希望や意向を十分に把握し、入居後も利用者の行動や表情など、家族とも相談しながら利用者の思いを把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となって、家族や医療機関とも相談しながら職員全員が介護計画作成に参加しており、職員の共有が図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎の定期見直しを原則としているが、利用者の状況を注意深く見守り、状態変化に応じて計画の変更が必要な際には、職員全員で検討しながら随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院など外出への付き添いや、同法人運営のデイサービスへ行き、浴室利用やボランティアの民謡などを楽しめるよう多様な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による毎週または隔週の往診があるが、家族や利用者の希望によってかかりつけ医への受診も自由であり、家族の付き添いが困難な場合は職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については利用者の入居時に家族と十分な話し合いを行い、現実になった際には、医療機関とも十分相談しながら対応している。	○	現時点では、家族や医療機関との話し合いや連携で特に問題は発生していない。しかし、重度化や終末期の扱いについての明確化、全職員の共有認識、トラブル発生への対応などから、指針の作成も検討することを期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者に対して誇りやプライバシーを損なわないよう十分配慮しながらケアサービスに努めている。個人情報も運営法人の規則に従って適切に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームとしての決まりはあるが、これに縛られることなく、利用者一人ひとりが暮らしやすい生活の場提供を最優先しており、全職員がこの趣旨に基づいて支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは職員と利用者が一緒に行ない、食事内容も刻み食など利用者の状況に応じたメニューを提供している。食事中は職員が同席して同じ食事をとり、話しかけたりして楽しい雰囲気でも過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週に2回以上、午後に実施しているが、利用者の希望によって午前や夕食後も入浴が可能である。入浴が難しい状況の場合はシャワー浴や足浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの趣味や好みに応じてカラオケ、書道、手芸、ジグソーパズル、プランターの花栽培、体操などバラエティに富んだ楽しみごとや気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近くの公園に散歩やお店に買物で外出しているが、ホーム専用車両が無く、ディサービスの車両を利用するため遠くへの外出が計画的に行なわれていない。	○	日常の外出以外に年間計画によって、花見、日帰り温泉、お祭り見学など遠くへの外出機会を多く持つ取り組みを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、日中は施錠をしていない。夏期の天気の良い日は玄関や内扉を開け放して開放感がある。玄関部分は内部から見通しが良いため、職員が利用者の外出行動も十分把握可能である。		

札幌市東区 グループホーム ヒューマンライフケア大倉湯

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は未実施で、今年実施予定であるが、災害対策はまだ十分な状態ではない。	○	消防署の協力を得ながら定期的に避難訓練や救命救急訓練を実施し、災害時の避難場所の明確化、防災グッズの用意とともに災害に地域住民の協力を得られるよう働きかける取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量など把握し、利用者一人ひとりに合わせた栄養バランスも配慮された食事が提供されている。なお、定期的カロリー計算も検討中である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ロビーや食堂居間は、季節の植物や利用者手づくりの作品がバランス良く飾られ、家庭的雰囲気がある。建物内部も総じて清潔で明るく、居室以外に利用者の居場所も確保され、居心地良く過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とも適切なスペースを有し、広い窓で明るく、清潔で安心な暖房施設や収納スペースが設けられている。利用者は好みの家具など自由に持ち込み、暮らしやすい生活をしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。